

第 99 期  
中間株主通信

2021年4月1日 ▶ 2021年9月30日

 フジ日本精糖株式会社

証券コード：2114



## 企業理念

私たちは、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献します。

## 経営方針

- ① 顧客第一主義の徹底
- ② 会社の発展と共に社員が成長する企業文化の形成
- ③ 公正で透明性のある企業活動の推進
- ④ 社会に評価される企業価値の向上
- ⑤ 社会に貢献する企業市民活動の充実

### CONTENTS

トップインタビュー	.....	P 2
セグメント別の状況	.....	P 5
連結財務諸表	.....	P 7
フジ日本精糖 20年のあゆみ	.....	P 9
会社概要／株式情報	.....	裏表紙

### ● 表紙の写真について

表紙の写真は、当社「写真同好会」の辻田 和人が撮影した作品です。



撮影地 - 河口湖大石公園 - 「コキアのグラデーション」

## トップインタビュー

### さらなる成長・発展に向けたステージアップに挑戦。

おかげさまで当社は、2021年10月1日をもって合併20周年を迎えることができました。これまで株主の皆様より賜りました厚いご支援に心から感謝申し上げます。今後、一層の事業成長と企業価値・社会価値の拡大を目指し、次の10年において飛躍を果たすべく、全社一丸となって努力し続けてまいります。

**Q** 当上半期の営業状況についてお聞かせください。

**A** 精糖事業の販売数量増に加え、機能性素材事業におけるイヌリンの好調が寄与し、増収・増益を果たしました。

この上半期は、新型コロナウイルス感染症蔓延の長期化に伴い、経済活動が引き続き制限を受け、当社の事業環境も厳しい状況で推移しましたが、多くの社会的混乱が生じた前期との比較では、全般的に市場の回復傾向が見られました。

売上面では、主力の精糖事業における販売数量の増加に加え、海外原糖相場の上昇、機能性素材事業におけるイヌリンの好調が大きく寄与し、前年同期比で増収を果たしました。利益面では、海外原糖相場の上昇がマイナス要因となりましたが、イヌリンの拡販による収益拡大とタイ子会社の業績改善がこれをカバーする形で、増益を確保することができました。

結果として上半期の連結業績は、売上高99億27百万円（前年同期比8.4%増）、営業利益7億46百万円（同7.0%増）、経常利益8億54百万円（同2.2%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益7億50百万円（同28.7%増）となりました。

主要セグメントの営業状況を振り返りますと、精糖事業は、前期において落ち込んだ砂糖の需要に持ち直しが見られ、販売数量が増加しました。しかし海外原糖相場の急激な上昇に対して、販売価格への反映が追いつかなかったことから、採算が悪化し、利益は前年同期を下回りました。

機能性素材事業のうち、イヌリンの国内展開は、新たな機能性の発掘とアプリケーションの開発を進める中で、チョコレート製品やシリアルバーなどへの採用を獲得し、販売を伸ばし



代表取締役社長 櫻田 誠司

ました。タイ国のイヌリン製造拠点である子会社Fuji Nihon Thai Inulin Co., Ltd. (以下FTI社) においては、国内外での需要増加に対応した増産・安定供給体制の確立に努めつつ、健康素材としての採用をアジア・オセアニアの各国で獲得し、売上高・利益の拡大を果たしました。これによりFTI社は、業績の改善が進み、連結業績の向上に大きく寄与しました。

その他の機能性素材では、切花活力剤「キープ・フラワー」が巣ごもり需要の増加により、家庭用製品の販売を伸ばしました。新たに投入した小サイズ（100ml）も堅調に推移しています。フードサイエンス分野は、ビタミン剤や食品添加物などのOEM案件の需要が減少する中、これを補うべく新規案件の

獲得に向けたサンプルワークを開始しています。連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、ゼラチン類の菓子原料向け販売が減少していましたが、他ペクチン、コラーゲンなどの天然素材とともに新規の採用も増え、市況は徐々に回復しつつあります。

**Q** 非砂糖分野の拡大に向けた最近の動きについて伺います。

**A** 持続的成長への基盤づくりとして、機能性素材事業を中心に多角的な取り組みを実行していく考えです。

非砂糖分野の拡大を牽引するイヌリンは、前述の通りアジア・オセアニアにおける健康素材としての採用を順調に拡大しています。当期は、タイおよびマレーシアで大手乳業メーカーの健康食品に採用された他、インドネシアおよびベトナムでも、大手健康食品メーカーの商品に採用されました。これらの国々では、主に粉末飲料やヨーグルトなど乳製品用の素材として導入されており、さらに引き合いも増えています。

一方、ユニテックフーズ株式会社では、新たな事業展開としてHBS（健康・美容・スポーツ）分野への参入に注力しています。先行して進めている健康関連では、咀嚼・嚥下困難者向けの水分補給ゼリーなど、在宅介護の増加に伴う需要を捉えた商品を開発・販売しています。スポーツ関連では、アスリート向けコラーゲンや筋肉疲労を回復させるクリアチンなどを商品化し、スポーツ界への営業アプローチを行っています。また、タンパク質代替製品として、近年注目されている植物性タンパ

ク加工食品の製造・加工に必要な素材を食品メーカーに提供している他、食品開発全般に関して、メーカーや代理店、EC事業者向けにコンサルティングサービスを開始しました。

さらに当社は、不動産事業による安定収益の確保として、東京都中央区日本橋茅場町の旧本社跡地に株式会社東横インが運営するビジネスホテルを建設し、同社との契約にもとづく土地・建物の賃貸借を行います。建設工事は年内に着工し、2023年夏の竣工を予定しています。

持続的成長への基盤づくりとして、引き続き非砂糖分野の拡大に向けた多角的な取り組みを実行していく考えです。

**Q** 通期業績の見通しと下半期の取り組みをお聞かせください。

**A** これまでの営業活動の遅れを取り戻すべく、全ての事業において積極的な顧客アプローチを進めていきます。

上半期の業績は、期初の計画をやや上回る形で推移しました。しかし足もとでは、新型コロナウイルス感染症の感染状況、海外原糖相場の動向など不確定要素が依然として多いことから、通期業績については、期初の予想数値を変更せず、売上高194億円（前期比2.1%増）、営業利益13億円（同9.5%減）、経常利益15億円（同15.3%減）、親会社株主に帰属する当期純利益10億円（同16.6%減）を想定しています。

下半期は、新型コロナウイルス感染症の防止対応として出張や対面の自粛などを行っていた営業活動の遅れを取り戻すべ

く、全ての事業において積極的な顧客アプローチを進めていきます。

精糖事業は、引き続き販売数量を伸ばしつつ、原材料仕入れの安定化や製造・販売コストの圧縮に努め、利益の改善を図ります。

機能性素材事業は、イヌリンの販売拡大に対応した増産・安定供給体制の確立がカギとなります。また従来よりも溶解性が高く、加工適性に優れたイヌリンの新製品を市場に投入し、新規分野・新規ユーザーの採用獲得を目指し、国内および海外で本格的に拡販していきます。ユニテックフーズ株式会社は、前述のHBS分野における展開や植物性食品への参入を加速しつつ、既存の天然素材であるペクチン・ゼラチン・コラーゲンについて、さらなる巻き返しを図ります。

なお当社は、東京証券取引所が2022年4月に予定している新市場区分への移行に際し、「スタンダード市場」を移行先市場として選択し、上場承認に向けた手続きを進めています。同市場において着実に成長を遂げ、将来的には上位市場を目指すべく、コーポレート・ガバナンスの拡充をはじめ、社内体制を整備してまいります。

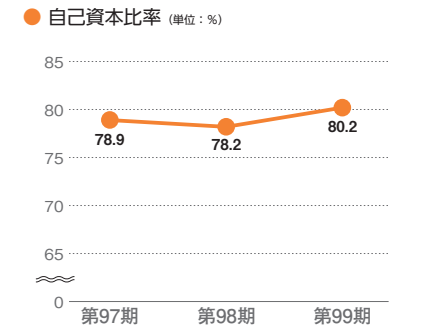
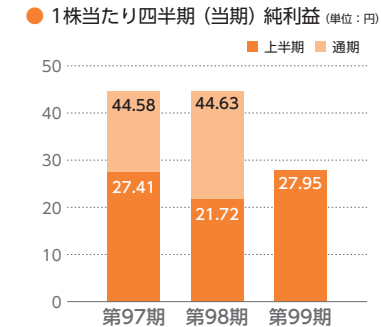
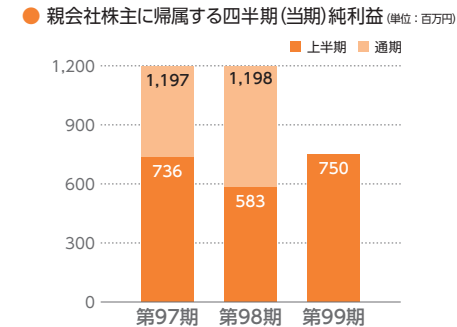
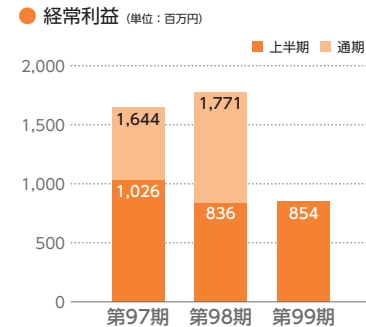
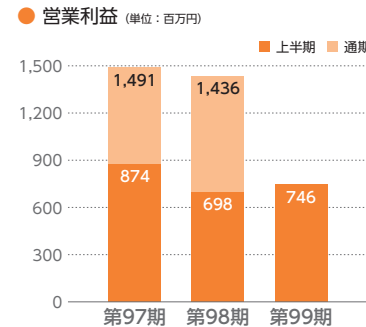
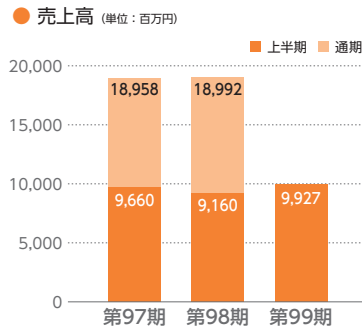
新型コロナウイルス感染症のワクチン接種が進み、社会全体に回復の兆しが見えてきました。その中で当社は、さらなる成長・発展に向けたステージアップを実現すべく、果敢にチャレンジしてまいります。

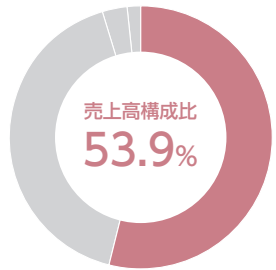
株主の皆様におかれましては、今後とも長期的なご支援を賜りますようお願い申し上げます。



連結業績ハイライト

CONSOLIDATED FINANCIAL HIGHLIGHTS



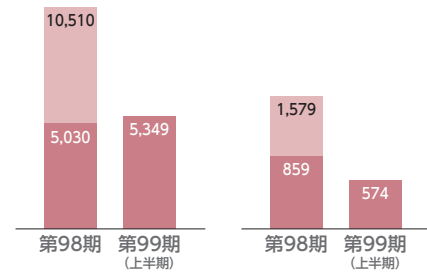


## 精糖事業

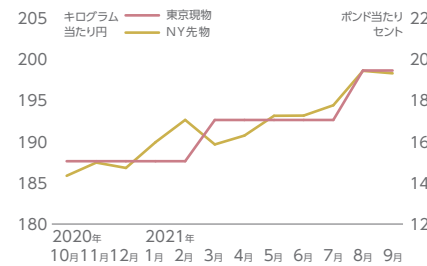
事業内容：精製糖、砂糖関連製品の製造販売を行っております。



● 売上高 (単位：百万円) ● 営業利益 (単位：百万円)  
■ 上半期 ■ 通期



● NY先物/東京現物 (月別平均相場)



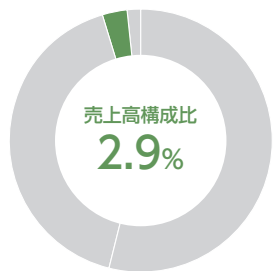
精糖事業につきましては、海外原糖市況はニューヨーク先物市場が期初14.71セント（1ポンド当たり）で始まり、ブラジルでの干ばつや原油高により4月には17セント台まで上昇しました。インドからの堅調な白糖輸出により、しばらく落ち着きを見せたものの、7月下旬にはブラジルの一部地域で霜害が発生したことにより生産の下振れが懸念され、8月半ばには2017年以来となる20セント台を付けました。その後は、海上運賃の急騰により、現物を買控える動きが見られ、19.83セントにて当上半期末を終了しました。

期初	高値	安値	期末	平均
14.71	20.37	14.68	19.83	17.85

一方、国内製品市況は期初東京現物相場（日本経済新聞掲載）192円～193円（上白大袋1キログラム当たり）で始まり、海外原糖相場高騰により8月に6円上昇して198円～199円となり当上半期末を迎えました。

製品の荷動きについては、飲料や菓子関係を中心に需要が戻り販売数量は前年同期を上回りました。利益面では急激な海外原糖相場の上昇に国内製品市況が追い付かず、減益となりました。

この結果、売上高5,349百万円（前年同期比6.3%増）、営業利益574百万円（同33.2%減）の増収減益となりました。

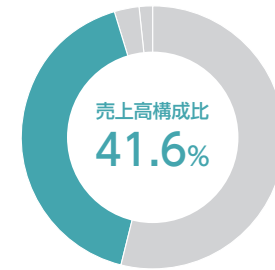


## 不動産事業

事業内容：当社が所有する土地建物の賃貸およびその他不動産関連事業を行っております。



不動産事業の業績は、売上高287百万円（前年同期比2.6%減）、営業利益267百万円（同37.0%増）の減収増益となり、引き続き安定収益確保に貢献いたしました。

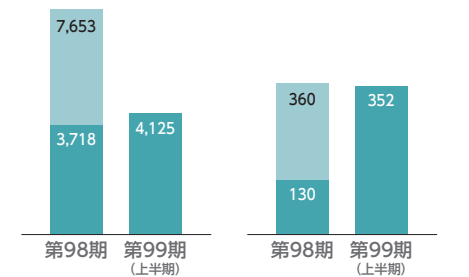


## 機能性素材事業

事業内容：機能性食品素材、食品添加物、切花活力剤等の製造販売、果実加工原料の販売を行っております。



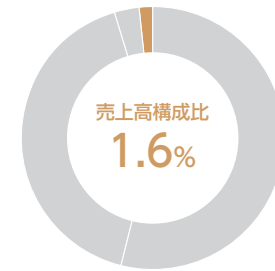
● 売上高 (単位：百万円) ● 営業利益 (単位：百万円)  
■ 上半期 ■ 通期



機能性素材事業につきましては、機能性食品素材「イヌリン」は、昨今の腸内環境の改善の必要性が認知される動きがあり、国内および海外においてニーズが高まった結果、新規採用件数が増加し、前年同期比で増収となりました。

切花活力剤「キープ・フラワー」につきましては、家庭用商品は販売数量が前年同期比で増加、業務用も前年実績をクリアしたことにより、増収となりました。連結子会社ユニテックフーズ株式会社は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響のなか、前年同期比で増収となりました。

これらの結果、売上高4,125百万円（前年同期比10.9%増）、営業利益352百万円（同169.7%増）の増収増益となりました。



## その他食品事業

事業内容：タイ国においてパンの製造販売を行っております。

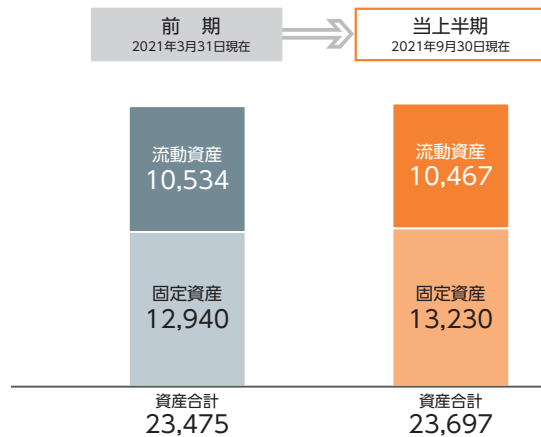


その他食品事業につきましては、タイでの食品関連事業が中心でありますが、売上高165百万円（前年同期比41.9%増）、営業利益3百万円（前年同期 営業損失8百万円）の増収増益となりました。

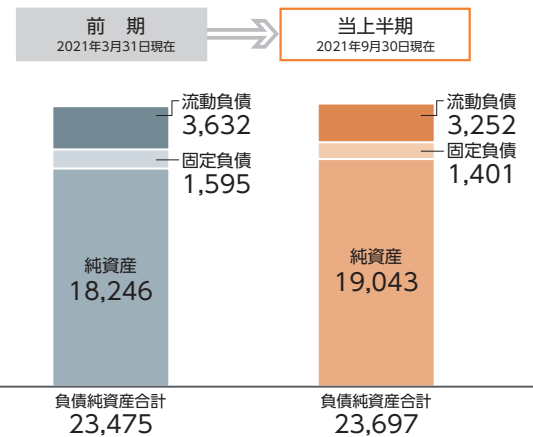


連結貸借対照表

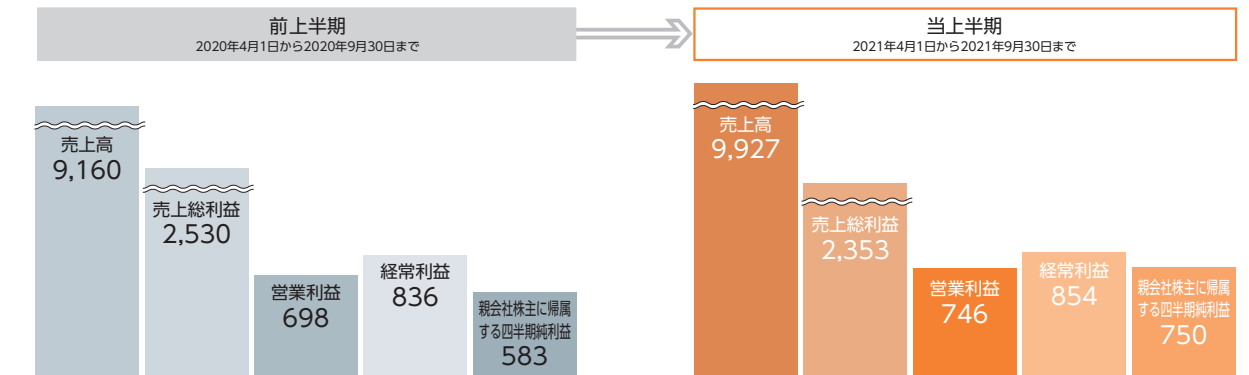
● 資産の部 (単位: 百万円)



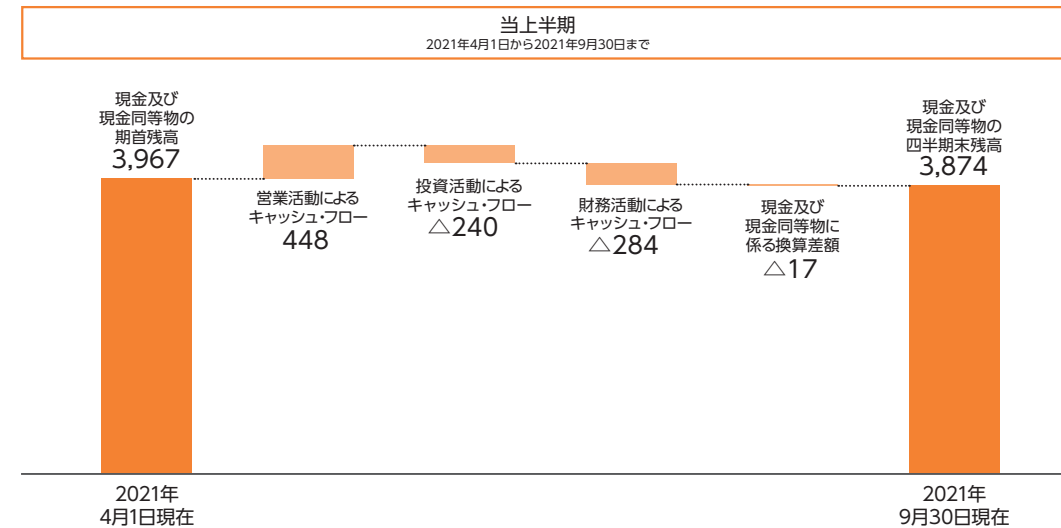
● 負債・純資産の部 (単位: 百万円)



連結損益計算書 (単位: 百万円)



連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)



財務のポイント

● 資産

資産につきましては、流動資産で前期末に比べ0.6%減少し、10,467百万円となりました。これは主として受取手形、売掛金および契約資産の減少等によるものであります。

また、固定資産につきましては、前期末に比べ2.2%増加し、13,230百万円となりました。これは主として投資有価証券の増加等によるものであります。

● 負債

負債につきましては、流動負債で前期末に比べ10.5%減少し、3,252百万円となりました。これは主として未払法人税等の減少等によるものであります。

また、固定負債につきましては、前期末に比べ12.2%減少し、1,401百万円となりました。これは主として長期借入金の減少等によるものであります。

● 純資産

純資産につきましては、前期末に比べ4.4%増加し、19,043百万円となりました。これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加等によるものであります。

# フジ日本精糖 20年 のあゆみ

日本精糖とフジ製糖が合併しフジ日本精糖が誕生して、おかげさまで本年10月に20周年を迎えました。この間、株主の皆様、お客様をはじめ多くのステークホルダーの皆様に支えていただき、精糖事業の生産合理化、国内外における「イヌリン」事業の立ち上げなど、積極的な事業展開をして参りました。今後も地球環境に配慮した事業活動を推進し、「夢のあるたくましい会社」を目指し、健康な生活づくりに貢献いたします。

## 2001年

- 10月 日本精糖株式会社とフジ製糖株式会社が合併し、商号をフジ日本精糖株式会社に変更
- 10月 太平洋製糖株式会社において精製糖の共同生産開始

## 2005年

- 1月 イヌリンの研究成果が、米国化学会が発行する食品化学論文誌「Journal of Agricultural Food and Chemistry」に掲載
- 5月 フードサイエンス工場竣工
- 10月 Tibaldi Small Goods (Australasia) Pty.,Ltdの株式を売却

## 2007年

- 11月 平成19年度民間部門農林水産研究開発功績者表彰において、「スクロースを原料として酵素で作られたイヌリンの性質と食品への利用」の研究で「農林水産大臣賞」を受賞

## 2013年

- 6月 FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd.設立

## 2017年

- 6月 イヌリンの「整腸作用」に関する機能性表示申請受理
- 11月 イヌリンの「血中中性脂肪低減効果」「食後の血糖値上昇抑制効果」に関する機能性表示申請受理

## 2011年10月 合併10周年

## 2021年10月 合併20周年

2001 2002 2003 2004 2005 2006 2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021

イヌリンプラント



## 2003年

- 4月 横浜工場跡地の賃貸開始
- 6月 清水工場 イヌリンプラント完成
- 8月 イヌリン製品「フジFF」販売開始



横浜工場跡地

## 2006年

- 3月 日本ティバルディ株式会社を清算

## 2004年

- 3月 清水工場における精製糖(液糖を除く)の生産停止

## 2008年

- 2月 清水工場原糖倉庫跡地の賃貸開始
- 5月 ユニテックフーズ株式会社の株式を取得(現・連結子会社)
- 8月 マンション開発分譲事業において神奈川県相模原市にマンション竣工



ユニテックフーズ株式会社は、ペクチン等の天然添加物素材や、その他機能性素材を独自のアプリケーション開発技術とともに日本国内の有名食品メーカーに販売しております。



清水工場原糖倉庫跡地



マンション開発分譲事業

## 2012年

- 6月 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd.設立



## 2014年

- 9月 DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd.設立



## 2019年

- 6月 砂糖小袋のブランドマークリニューアル



## 2021年

- 4月 「イヌリーナ」発売



# 20th ANNIVERSARY

# 会社概要 (2021年9月30日現在)

COMPANY INFORMATION

## 会社概要

商号	フジ日本精糖株式会社
英文名	Fuji Nihon Seito Corporation
設立	1949年(昭和24年)7月
資本金	1,524百万円
従業員数	58名
本社所在地	〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号 電話 03(3667)7811(代表)
清水工場	〒424-0924 静岡県静岡市清水区清開一丁目4番10号 電話 054(334)5353(代表)
横浜共同生産工場	太平洋製糖株式会社 〒230-0053 神奈川県横浜市鶴見区大黒町13番46号 電話 045(501)0511(代表)
子会社	協立食品株式会社 ユニテックフーズ株式会社 Fuji Nihon Thai Inulin Co.,Ltd. DAY PLUS (THAILAND) Co.,Ltd. FUJI NIHON (Thailand) Co.,Ltd. UNITEC FOODS KOREA Co.,Ltd. 株式会社Tastable
関連会社	太平洋製糖株式会社 マ・マーマカロニ株式会社 南栄糖業株式会社

## 役員

代表取締役社長	櫻田 誠司
取締役常務執行役員	関根 郁也
取締役執行役員	吉水 あつ子
取締役	菊地 正男
取締役	高橋 明彦
取締役	曾我 英俊
常勤監査役	梶田 伸哉
監査役	上平 徹
監査役	藤田 世潤

## 執行役員

常務執行役員	大口 真央
執行役員	和田 正
執行役員	新野 真人

## 監査法人

会計監査人 有限責任監査法人トーマツ

**フジ日本精糖株式会社**

〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町6番7号  
TEL : 03-3667-7811 <https://www.fnsugar.co.jp/>

# 株式情報 (2021年9月30日現在)

STOCK INFORMATION

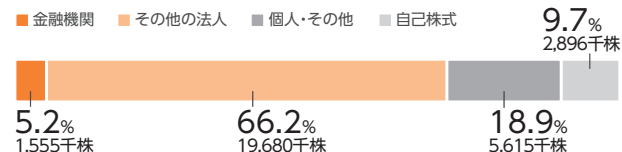
## 株式の状況

発行可能株式総数	110,000,000株
発行済株式の総数	29,748,200株
株主総数	19,238名
大株主	

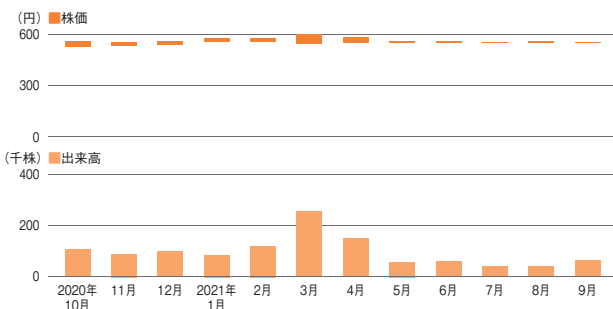
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
双日(株)	8,153	30.4
和田製糖(株)	2,455	9.1
鈴与(株)	1,902	7.1
豊田通商(株)	1,229	4.6
(株)静岡銀行	792	2.9
(株)榎本武平商店	758	2.8
小倉運輸(有)	669	2.5
新潟県砂糖卸荷受商業協同組合	600	2.2
(株)サカタのタネ	563	2.1
東京海上日動火災(株)	447	1.7

(注)持株比率は自己株式(2,896千株)を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況



## 株価の推移 (東京証券取引所実績)



**UD  
FONT**

見やすいユニバーサルデザイン  
フォントを採用しています。



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。